改憲・戦争阻止！大行進 全国ニュース

6月号
2026
No.18

【連絡先】千葉県千葉市中央区要町2-8 動労千葉気付／東京都台東区元浅草2-4-10 五宝堂ビル5F　毎月1回 15日発行
TEL.080-6053-1751（本山）　kaikensoshi_daikoushin@yahoo.co.jp　頒価100円

中国侵略戦争阻止！ 改憲・戦争国会粉砕！

反戦デモで高市たおそう

高市が翼賛国会を支えに国家情報会議設置法や入管法改悪など戦争・治安立法を一気に押し通し、憲法審査会では緊急事態条項創設や9条改憲への「討議」が急加速している。

いまなぜ改憲か。日本帝国主義が中国侵略戦争に全面的に突っ込むためだ。没落を深めるアメリカ帝国主義が、戦後世界体制の破壊者として登場するところまで行き着き、世界支配の暴力的再建をかけて、イラン侵略戦争を開始し、中国侵略戦争－世界戦争に突進している。この中国侵略戦争を主体的積極的に推進する以外に日帝の存立・延命の道はなくなった。そのために、敗戦帝国主義としての戦後的制約を最後的に突き破り、公然たる「侵略国家」として登場し、反戦の声と闘いをたたきつぶして戦争国家体制への大転換を図る、それが日帝・高市の改憲攻撃だ。「年単位の継戦能力」「新しい戦い方」を謳う安保3文書改定とも一体で、国家総力戦体制を構築しようとするものだ。米日帝の中国侵略戦争を絶対に阻止するために、改憲を阻止し高市を打倒しなければならない。

戦争か帝国主義打倒か

現憲法体制は、日帝の戦後支配のあり方そのものだった。それは「平和国家」として守るべきものなのか。そうではない。米帝を基軸とする帝国主義の世界支配・抑圧の一角を支え、そのもとで経済侵略・搾取・収奪をほしいままにしてきた（それと一体で国内では青年の未来も生活も徹底的に破壊）。とりわけ日米安保と在日米軍基地は朝鮮・ベトナム・アフガン・イラクをはじめ一貫して米帝の残虐な侵略戦争の出撃拠点としてあり続け（今もイラン人民虐殺の最大の出撃拠点だ！）、日米安保強化として自衛隊増強も推し進められてきた。そして何よりも帝国主義国家としての延命（天皇制の護持）のために、中国・朝鮮・アジアへの侵略・虐殺の歴史を居直り続けてきた。これが現憲法を掲げた戦後日帝の姿だ。

「復帰」54年5月沖縄闘争（嘉手納デモ、17日）

だからこそ高市の改憲攻撃に対する回答は、戦後憲法を守ることではなく、帝国主義支配の継続のためには中国侵略戦争－世界戦争以外になくなった帝国主義支配の全構造を根底的にうち砕くことだ。

いま、高市・改憲・戦争に対して、青年・学生・女性を先頭にしたものすごい怒りが国会・官邸を包囲する行動となって渦巻いている。議会での数合わせではなく、自分たちの力で戦争を止め、社会を変える――この闘いを徹底的に発展させよう。その道は、戦争の原因＝根源である帝国主義を打倒することだ。

7・4女性反戦デモへ

5月末のアジア安保会議は、中国への戦争体制を強烈に確認する場になった。ヘグセス米国防長官はアジアを含む全同盟国に軍事費のGDP比3・5%への増額を要求した。自衛隊・米軍は5月の陸上総隊演習（南西）に続いて、6月後半には沖縄・九州を拠点に中国侵略戦争の大規模な実戦訓練を展開する。

これと対決し、6～7月の改憲阻止の国会決戦を闘い、中国侵略戦争阻止・高市打倒の巨大な反戦デモを！6・14首相官邸デモに続き、7・4反戦女性集会＆デモin高円寺に大結集しよう。怒りを解き放ち、侵略・虐殺・差別・抑圧を粉砕する大デモをやろう。

全基地撤去・安保粉砕・日帝打倒

中国侵略戦争阻止を闘った5・16～18沖縄闘争

「復帰」54年5・15沖縄闘争が5月16～18日の3日間、沖縄－本土から250人が結集して闘われた。闘いは16日の那覇・国際通りでの戦闘的ヘル・スクラムデモから始まった。「中国侵略戦争阻止！全基地撤去、安保粉砕・日帝打倒」を訴え、国家権力・機動隊を圧倒して力強く進撃した。

デモ指揮で牽引した大行進沖縄の松本未土さんが、16日夜の集会で沖縄闘争の意義を熱烈に訴えた。「5・15沖縄現地闘争は、アメリカ帝国主義による中国侵略戦争―世界戦争の本格的な開始の中で闘われている。沖縄がイラン侵略戦争の最大拠点となっている現実を1日だって許すことはできない」「72年『復帰』と5・15体制とは、米帝の世界支配のために沖縄が犠牲にされ、日帝の生き残りとアジア再侵略のために、沖縄が『基地の島』として固定化・永続化を強制されてきた体制だ」「そして今、米日帝国主義が再びの中国・アジア侵略戦争に踏み出している。その拠点が日米安保体制であり、最大の実体が沖縄だ。その中で女性暴行をはじめ事件・事故も激発している」「沖縄の基地を撤去してこの現実をひっくり返すことが、日米安保体制を打ち砕いて中国侵略戦争―世界戦争を阻止し帝国主義を打倒する。沖縄は革命の火薬庫だ」（基調報告）。中国侵略戦争阻止の安保・沖縄闘争の歴史的爆発への号砲が鳴らされた。

嘉手納基地第2ゲート前

イラン侵略やめろ！米軍嘉手納基地へ進撃

「嘉手納からのイラン出撃を止めるぞ！」―17日は沖縄市の胡屋十字路から米空軍嘉手納基地の第2ゲートへ向け、再びヘル・スクラムデモが進撃した。米軍政下の沖縄の怒りが爆発した1970年コザ暴動の現場であり、そしてまた復帰闘争過程で、「死すべきは基地だ。労働者は死んではならない」「解雇撤回・基地撤去」と訴え、基地労働者の全軍労牧港支部青年部（牧青）が大激闘を繰り広げた現場で、その歴史を引き継いで、沖縄の青年を先頭に闘い抜いた。

何よりも今、同基地を拠点とする米空軍第18航空団がイラン侵略戦争の中心を担う米中央軍に参加している。さらに米空軍の中国侵略戦争への新構想「迅速な戦闘展開（ACE）」でも嘉手納基地は前線拠点とされている。パラシュート降下訓練の常態化、無人機の相次ぐ配備・拠点化、外来機の飛来、F35Aステルス戦闘機の暫定配備、最新鋭戦闘機F15EX配備の計画など、侵略出撃拠点としての基地強化が急加速している。

デモ終了後、解散点から第2ゲート前への部隊の進行を、横断歩道をふさいで力ずくで阻もうとした機動隊と激突しながら、さらに徹底的に怒りをたたきつけた。

ミサイル基地解体！自衛官は侵略の銃をとるな！

17日は嘉手納デモ後、南西諸島のミサイル部隊を統括する第7地対艦連隊本部がある陸上自衛隊勝連分屯地へ。18日には、26年度の陸自第15旅団の師団化（司令の陸将への格上げ、司令部地下化、16式機動戦闘車配備）が狙われる那覇駐屯地へ。中国侵略戦争の実戦部隊としての自衛隊の大増強とミサイル基地化を絶対許さないと、抗議闘争を闘った。

勝連分屯地

那覇駐屯地

全学連の学生は自衛隊員に「私たちの反戦闘争は非暴力ではなく、帝国主義打倒の内乱です。虐殺に荷担させようとする日本政府・帝国主義に対して武器を向けよう」と訴えた。

陸自第15旅団の師団化＝大増強を許すな！

辺野古座り込みで車両搬入を止めた！

18日朝、キャンプ・シュワブの工事用ゲート前で辺野古新基地建設絶対阻止の座り込みを闘い、300人の大結集の力で工事車両の搬入を阻止した！大勝利だ！

3月のボート転覆死亡事故を奇貨として、政府・国家権力・右翼・マスコミが辺野古闘争への大バッシングを連日展開している。中国侵略戦争に突進するために、沖縄の怒りと反基地闘争への敵意をむき出しにして解体しようとするものだ。文科省はさらに、学校での平和学習を「偏向教育」だとして教育基本法違反とまで認定した。絶対に許すことはできない。

そもそも、日米政府の「普天間返還」合意直後にすぐさま「代替基地が条件」として辺野古新基地計画を発表し、国家の全体重をかけ、金と暴力をつぎ込み、選挙でも住民投票でも反対の明確な意思が示されようが踏みにじり続けてきた。沖縄の「戦意をくじく」（防衛省関係者）ために破綻的工事を強行し続けている。

これと対決し、反戦反基地の意思を行動として貫いて、30年にわたって基地建設を実力で阻み続けている。おじい・おばぁを先頭としたこの不屈の座り込みに心から連帯し、一体となって、絶対阻止の立場で闘い抜き、午前中の工事車両を阻止した勝利感を共有して、完全勝利への決意を打ち固めた。

3日間の沖縄闘争は、中国侵略戦争を阻止し、米日帝国主義を打倒する展望を切り開く画期的闘いとなった。すでにイラン虐殺の出撃拠点となっている沖縄は、中国侵略戦争の最前線の出撃拠点化、軍事要塞化、丸ごとの戦場化が激しく推し進められている。これと真っ向対決する安保・沖縄闘争の大爆発をつくり出そう。全国から「辺野古新基地建設阻止」「沖縄を軍事要塞にするな」「全基地撤去、日米安保＝戦争同盟粉砕」の声と闘いを巻き起こそう。

国会行動で6・14デモを訴えた

私たち改憲・戦争阻止！大行進は、5月19日（火）と29日（金）の夜に行われた国会行動に参加した。主催は19日が「総がかり行動実行委員会」と「全国市民アクション」、29日が「WE WANT OUR FUTURE」。両日ともに1万人が結集して戦争反対、改憲反対、高市やめろの声をあげた。

国会行動には女性の参加が圧倒的に多く、初めて参加した人も多い。そして一人ひとりが手作りのメッセージボードを掲げ、ペンライトなどを手にしている。私たちは「6・14全国集会」のビラを配りながら、「戦争の元凶は帝国主義だ。トランプ・高市を倒そう」「中国侵略戦争を絶対に阻止しよう」と6・14首相官邸デモへの参加を訴えた。ビラは計3500枚を配り、「改憲と大軍拡に反対する署名」も数百筆集まった。全体集会の前後でマイクアピールやコールも行った。

集会では国会議員などが「日本は平和憲法を持つ平和国家」「高市首相は戦争をあおるな。日本こそ対話と平和外交を」と発言する。このことについて全学連の学生や青年労働者が、「日本は本当に平和国家なのか？在日米軍基地からイラン侵略戦争に出撃することを許している。自衛隊に長射程ミサイルを持たせ、沖縄が戦場になることを前提にした中国侵略戦争を準備している。日本も戦争で延命しようとする帝国主義だ。この帝国主義を倒してこそ戦争は止められる」とアピールした。また、鉄柵で国会周辺の道路を覆う国家暴力の問題を問いかけ、国家暴力を実力で打ち破ることが必要だ、6・14官邸に大デモで進撃しようと熱烈に訴えた。（川添）

国鉄闘争に勝利し反戦の先頭に！

関 道利さん（国鉄千葉動力車労働組合委員長）にインタビュー

「反戦闘争を労働組合の第一課題に」と訴える動労千葉の関委員長に、7・11国鉄全国集会に向けてお話をお聞きました。（文責：事務局）

戦争の先兵＝連合を許さず

アメリカ帝国主義がイランを攻撃し、侵略戦争を行っている。帝国主義中の帝国主義であるアメリカが、あのような形で戦争を仕掛けるというところに帝国主義のものすごい危機がある。そこをとらえて反戦を闘っていくことが非常に重要だと思います。

アメリカ大使館や首相官邸前でイランの方々が言っていた、「戦争反対だけれども、イランの戦いはアメリカ帝国主義の侵略への抵抗闘争であると理解してほしい」という訴えは、私たちには胸にストンと落ちるものがあります。私たちこそ、こういうイランの人民と連帯しなければいけない。

日本の高市政権も「台湾有事は日本の存立危機事態」と言って対中国の戦争に踏み込んでいます。バイデン大統領の時から麻生らが「台湾有事は日本有事」と言ってきたが、それを高市が首相として戦争宣言した。これは、日本の労働者・労働組合として絶対に許すわけにはいかない。武器輸出の全面解禁を決定した高市政権は、すでにオーストラリアには「もがみ」型護衛艦の輸出を、フィリピンには「あぶくま」型護衛艦と対艦ミサイルを売却するとしています。

ところがナショナルセンターの連合は、戦争反対を掲げないどころか、高市政権と一体となって防衛産業で日本を成長させると言っている。高市の日本成長戦略会議は、17の戦略分野を掲げ、その中で最大の焦点が防衛産業だとしています。ここで日本経済を成長させる以外ないというようなことが言われていて、そのためには労働力を防衛産業に強制移動させるとまで言っています。まさに連合を先兵とした戦時体制づくりの攻撃です。労働組合こそが中国侵略戦争阻止の反戦闘争に立ち上がって、こんな状況を絶対にぶち破らないといけない。

労組こそ国会闘争に決起を

――「労働組合の第一の課題は反戦だ」と訴えられていますね。

私たち動労千葉は、国鉄に入って、労働組合で勉強してきました。青年部の学習会とか合宿もあったかな。だからうちの組合員は、戦争反対が大前提になってきました。

この「反戦を第一に」は、国鉄の分割・民営化に反対して、首を覚悟して2波のストライキを闘ったことによって確信になっていきました。当時の首相であった中曽根が、国鉄分割・民営化を「行政改革の二〇三高地」と位置づけ、「行革で大掃除をして、お座敷をきれいにして、そして立派な憲法を安置する。これが我々のコースである」「国鉄民営化で国労をつぶし、総評・社会党をつぶすことを明確に意識してやった」と言ったことで、分割・民営化が改憲＝戦争のためだとはっきりしたわけです。

委員長の私としては反戦を意識的に言わなきゃいけないと思ってきました。毎年1月末頃に動労千葉の全支部活動者会議を行っていますが、今年は年頭からアメリカのベネズエラ侵略があって、切迫感を持って臨みました。『琉球弧を戦場にするな』も上映して、食い入るように見てもらい、講師からの講演を受けて、参加者に感想文も書いてもらいます。また、同じ

頃に経団連の『経労委報告』も出されるので、毎年それも対象化しています。情勢に食らいつくことが大事で、その努力を怠ってはだめですね。

自分は今、JR東からの出向でCTS（千葉鉄道サービス）で働いていますが、組合員じゃない人にも全員に『日刊・動労千葉』は渡していますので、これから本格的に議論がわいてくればいいと思っています。

――1万人が集まった国会行動に動労千葉も参加されていますね。

5月の19日と29日は、千葉の大行進の仲間とともに動労千葉も参加しました。女性が多く、多くの人々が主体的に参加して声をあげている。重要な情勢が来ていると感じます。

しかし本当なら、労働組合こそがそのような闘いを主導して責任をとっていくべきだと思います。私たちが呼びかけてあの規模の行動になるかと言えば、なかなか厳しい現実はありますが、この間の国鉄署名の集まり具合を見れば、展望がないわけじゃない。5月3日の憲法集会では700筆の署名が寄せられた。国鉄闘争のことを知らない世代も、話を聞いて署名に応じてくれ、署名用紙を持ち帰ってくれた人もいる。国会前に集まってきている人たちと大きく結びついていくことは可能なんです。そのためにも、高市を打倒して労働者階級が社会を変えていこう、そこを目指そうとはっきり訴える必要があります。

敵は労働者の反乱を恐れる

――7月11日の国鉄全国集会の意義について話してください。

先ほども言いましたが、40年も闘ってきた国鉄闘争は、反戦闘争にとっても決定的なんだと思っています。

この4月にJR東日本が人事賃金制度の改悪を強行したのですが、それは歴史的な踏み込みで、退職金や定期昇給を廃止し、乗務手当などもなくす。7月からはさらに組織再編だと言っています。

組織再編というのは、今まで東日本で12支社だったものを36の「事業本部」に置き換えることです。千葉で言えば千葉と京葉総武と房総という3つの事業本部に分けられ、その事業本部を一つの事業場として扱おうとしていました。

これは、事業場の概念を破壊して労基法の土台まで壊そうというものです。戦後的な労働法制の根本的な解体であり、労働者の権利を奪う大攻撃です。さすがに厚労省も、その規模では一つの事業場としてみるのは厳しいと言ったので、36の事業本部をさらに分割しようとした。だからもう、労働法制を抜本的に変えようと狙っているわけです。

敵は、労働者の反乱を恐れています。中曽根が「国労をつぶして新たな憲法を安置する」と言ったように、労働組合というのは敵から見たら非常に怖い存在なんですよ。それを最後的に解体する、労働者の団結権を破壊する攻撃が現在の労働法制解体の攻撃なんです。だからやっぱり闘う労働組合を取り戻さなければならないということが非常に重要なんです。

労働組合の組織率は16％位だと言われていて、実際は会社側に手なずけられた組合が多いわけじゃないですか。だけど、今の情勢を考えたら、労働組合が赤旗を林立させて国会前なんかに大結集してね、組織された労働者部隊として国家権力と対峙するような闘いをやる必要があります。

人生かけ闘ったから今がある

1985年当時、ストライキに入れば全員クビだとも言われました。ストライキを禁止する公労法で解雇されるという話です。当時の大臣なんかも「飛んで火にいる夏の虫」と言ってました。

だけどそこでストライキで闘ったからこそ、今の動労千葉がある。40名も解雇されましたが、全国の仲間とともに人生をかけて闘ったからこそ今があると、本当にそう思っています。

1047名解雇撤回の裁判闘争も、勝利まであと一歩のところに来ました。裁判所は「JRに解雇の法的責任なし」とし、原職復帰の道を閉ざしてきたのですが、長い闘いの中で私たちは真実を暴き出し、JRの法的責任を問う控訴審となりました。東京高裁は1月23日の裁判で中労委に対してJRの不当労働行為についての認否を求め、「認めるのであればそれに基づいて判決を書く。争うのなら（井手元JR西会長・当時の国鉄総裁室長らの）証人調べを行う」と表明したのです。

ここまでこれたのは全国の仲間が40年ものあいだ国鉄闘争をともに闘ってきてくれたからであり、署名運動の力でもあります。署名を集めてくれた皆さんには感謝を申し上げたい。7月16日に3回目の裁判がありますが、何としても勝ち切りたい。

その意味でも7月11日の国鉄全国集会は、1047名解雇撤回に勝利する総決起集会です。韓国から鉄道労組ソウル地域本部が参加してくれます。ミャンマーの仲間も駆けつけてくれます。また、イランの仲間も会場のロビーで、虐殺されたミナブの子どもたちの写真展を開催します。

労働者の力で戦争を止める

――韓国の民主労総との国際連帯についてはいかがですか？

民主労総ソウル本部や鉄道労組ソウル地域本部とは、20年以上にわたって、幹部同士の儀礼的なものではなく、現場同士の連帯闘争を含めたかけがえのない連帯関係を築いてきました。規模で言えば私たちは比較にならないほど小さいわけですが、しかし互いに深い信頼をもって連帯してきました。動労千葉が貫いてきたもの、階級的なものの見方に共通するところがあったのだと思います。

こうした国際連帯を築けたのも、国鉄分割・民営化反対を貫き1047名解雇撤回闘争をここまで闘い抜いてきたからです。全国の仲間とともにこうした地平を切り開いたわけですから、何としても国鉄闘争の勝利をかちとりたい。

私たちは今、中国への侵略戦争を許すのか否か、世界戦争という破滅への道を許すのかどうかの分岐点に立っています。戦争に動員されるのも労働者ですが、戦争を止めることができるのも労働者。国家権力はその労働者階級の反乱を恐れています。居ても立っても居られずに国会前に集まっている人々は、そういう自覚はないかもしれないけれど、労働者が団結して闘えば戦争は止められるということを知ってほしいですね。労働者は本質的に、根本的にそういう存在であり力があるんだということを。

だからこそ目の前の国鉄闘争に勝利しなくてはならない。国鉄を中心にして、戦時下で闘う労働運動を再生させなければならない。7月11日の国鉄集会、そして7月16日の高裁闘争への大結集をお願いします。（了）

無実の大坂正明さん奪還！全国集会に230人

星野・大坂全国救援会は5月24日、東京で全国集会を開催しました。冒頭ビデオ上映で5・15沖縄闘争の激闘、迎賓館横田爆取弾圧の須賀武敏さんが出獄をかちとった映像に、会場は感動と高揚に包まれました。

集会は初めに、9年の長期未決勾留と闘う大坂正明さんのアピールが紹介され、東京拘置所の非人道的処遇と断固として闘う大坂さんの不屈の決意を共にしました。救援会事務局長・小泉義秀さんが基調報告。米帝のイラン侵略戦争を許さず中国侵略戦争阻止の大反戦闘争を全力で闘い、労働者民衆の実力闘争で帝国主義を打倒し社会を根底的に変革していくことが、大坂さん奪還、星野国賠勝利の道であると鮮明に提起しました。

大坂弁護団の西村正治弁護士は「1審判決から2年半、いまだに裁判の期日が決まらないのは、東京高裁を追い詰めているからだ。中国侵略戦争阻止の重要な一環として控訴審を闘い、大坂さんを奪還しよう」と訴えました。山本志都弁護士は5月22日の大坂さん保釈請求を報告、東京拘置所の劣悪な処遇を怒りこめて弾劾し、これを打ち破ろうと訴えました。

星野国賠弁護団の岩井信弁護士は「言い逃れに汲々とする国の主張に負けるわけにはいかない」と、和久田修弁護士は「星野国賠、大坂裁判で国を追い詰めているのは何十年もの闘いの力。辺野古で闘う皆さんにも国賠勝利を伝えたい」と訴えました。

全国救援会共同代表の浅野健一さんと星野暁子さんが、沖縄・辺野古闘争圧殺攻撃への怒りと、星野・大坂闘争の勝利を訴え、最後に闘う現場からの決意表明が行われました。救援会からは京滋、埼玉、東京南部の仲間がアピール。東京労組交流センター代表の山口弘宣さんは「帝国主義は世界で残虐の限りをつくしている。こんな帝国主義を我々は許さない」と熱烈に帝国主義打倒を訴え、改憲・戦争阻止！大行進の本山隆介事務局長は「実力で高市を打倒する闘いを6・14闘争で実現しよう」と星野・大坂精神で闘おうと呼びかけました。最後に全学連が「星野・大坂の闘い引き継ぎ、ブルジョア国家の打倒へ闘い抜く」と力強く訴えました。

6・14闘争へ、中国侵略戦争阻止の決意と熱意があふれる集会でした。6・26星野国賠勝利から大坂奪還への展望をつかむ集会になりました。

（星野大坂救援会事務局・神藤猛雄）

部落差別の元凶＝日本帝国主義を倒せ！5・23狭山闘争・渋谷デモをうちぬく

部落解放東日本共闘会議事務局長　徳永健生

「石川一雄さん不当逮捕63カ年糾弾！」「部落差別の元凶＝日本帝国主義を打倒するぞ！」。渋谷の街を行き交う若者にコールで呼びかけ90人のデモ隊は進んだ。スクランブル交差点では、多くの人々が腕を振り上げ共にコールし、6・14反戦デモへはずみをつける闘いとなった。

デモに先立ち5・23狭山集会がかちとられた。基調提起は、米帝のイラン侵略戦争を徹底弾劾して「中国侵略戦争阻止！改憲粉砕！日帝・高市政権打倒！」を訴え、狭山第4次再審闘争勝利を呼びかけた。狭山闘争は部落解放闘争の根幹をなす闘いだ。日帝はアジア侵略と国内支配のために部落差別を再生産し続けた。部落差別は日帝の人民分断支配、階級支配の重要な柱である。部落完全解放とは、部落差別の根源である日帝を打倒する闘いだ。日本帝国主義に対する糾弾闘争としての狭山闘争の原点を明らかにした。

星野大坂全国救援会から連帯あいさつ。動労千葉・渡辺書記長、動労総連合水戸・外岡執行委員、大行進埼玉、全学連から決意表明が行われた。東京労組交流センター・山口代表は、「帝国主義の下で労働者は差別・抑圧と闘う立場を持たなければならない。帝国主義は植民地の搾取・収奪によって成り立つ」「あらゆる差別・抑圧と闘う『血債の思想』で闘おう」と労組交流センター運動の変革をよびかけた。

水平同盟杉並支部・田中支部長は、「水平社がアジア侵略戦争に協力し融和主義に取り込まれた歴史を繰り返さない。私たちは女性差別に屈服した差別・分断―再団結論の誤りをのりこえ、戦争に反対し差別をなくす立場に立つ」「西郡では、部落解放・日帝打倒の立場で差別糾弾闘争を復権する新たな闘いが始まった」と述べ、東京で郵便局内での部落差別に対して当該労働者を先頭に徹底糾弾の闘いが開始されたことを明らかにした。

最後に渡辺全学連書記次長から、6・14へ巨大な闘いを実現しようと訴え、全員で決意を固めた。6・14闘争の爆発から、6・22東京高裁包囲デモ―要請行動に立ち上がろう！

中国侵略戦争阻止―軍事空港粉砕！強制収用絶対阻止！伊藤信晴さんを迎えて決意を新たにした関西三里塚集会

6月6日、大阪市内において関西新空港絶対反対泉州住民の会と大行進関西の主催で関西三里塚集会が80人の結集で開催された。60年に及ぶ成田空港建設阻止闘争の軌跡を描くビデオ上映が行われた。

泉州住民の会代表の中川育子さんは基調提起で「中国侵略戦争阻止の決戦場である三里塚闘争に関西から改めて総決起していく、その出発点として本日の闘いを打ち抜こう」と呼びかけ、軍事空港の完成を阻み続けている誇るべき闘いの砦としての三里塚闘争の意義を全面的に提起した。

さらに、三里塚闘争が切り開いた地平を発展させ、関西国際空港・大阪空港（伊丹空港）・神戸空港にかけられている「特定利用空港」＝自衛隊・米軍による軍事空港化攻撃を断固打ち破る闘いに立ち上がることを訴えた。

三里塚60年の闘いの偉大さ

続いて三里塚反対同盟から伊藤信晴さんが現下の現地攻防について報告し、60年間の死闘は「農民・住民をとことん貶める理不尽に対し、『実力闘争以外にはありえない』闘いとしてあったし、それは全く正しかったと断言できる」と総括し、空港拡張攻撃に対して新たに闘いに立ち上がる住民の怒りを組織する挑戦を開始したことを報告するとともに、「全国からの総決起の力こそが勝負を決する」と訴えた。

質疑応答と決意表明では、歴戦の

5･12怒りの千葉県庁包囲デモ

強制収用やめろ！軍事空港粉砕！
空港拡張阻止！5･13菱田現地デモ

闘争を闘い抜いてきたベテランの仲間や青年労働者が、自らの価値観と人生を変えた実力闘争の決戦場としての三里塚への熱い思いと闘いの決意を訴えるとともに、関西3空港をめぐる軍事空港化阻止闘争への意気込みを訴えた。

最後に、直近に迫った6・14大行進全国集会・首相官邸実力デモへの総決起と、泉州住民の会が呼びかける7・5関空闘争、そして三里塚における全国闘争と決戦局面での闘いに全力で取り組むことを確認し、デモに出発した。デモのコース上にある大阪米領事館前では、米帝トランプによるイラン侵略戦争を徹底弾劾。「軍事空港粉砕・農地死守・実力闘争で帝国主義を打倒しよう！」と意気高く訴えた。**（大行進関西　西納岳史）**

内外情勢（5月中旬～6月上旬）

▼米軍、イラン籍タンカー２隻攻撃（8日）
▼フィリピンでASEAN首脳会議（8日）
▼衆院憲法審、緊急事態条項創設の改憲イメージ案について議論始まる（14日）
▼米トランプと中国・習近平国家主席が北京で首脳会談（14日）
▼高市・米トランプの電話協議（15日）
▼刑事訴訟法改定案を閣議決定（15日）
▼イスラエルがガザ北部空爆、ハマス軍事部門幹部イズ･ハダド氏を殺害（17日）
▼宮古・石垣・与那国で陸上総隊と米海兵隊のEABO実動訓練開始（17日）
▼高市訪韓、李在明大統領と会談（19日）
▼ロシア・プーチン大統領が訪中、習近平国家主席と首脳会談（20日）
▼在沖米海兵隊が東富士演習場でハイマースの国道越え射撃訓練（20日）
▼米がキューバのラウル・カストロ元国家評議会議長を殺人罪で起訴（20日）
▼辺野古小型船転覆事故で文科省が同志社国際高校を教基法違反の認定（20日）
▼衆院憲法審で緊急政令の討議（21日）
▼在沖米軍軍人による4月の女性への性的暴行事件で書類送検（22日）
▼ウォーシュ新FRB議長が就任（22日）
▼核不拡散条約NPT再検討会議、米イラン対立で文書採択できずに閉幕（22日）
▼安保３文書改定へ自民党安保調査会が政府への提言案を了承（25日）
▼日米豪印QUAD外相会合、経済安保での連携強化を確認（26日）
▼米中央軍がホルムズ海峡でイラン攻撃、25日にもイラン南部を攻撃（27日）
▼国家情報会議創設法案が成立（27日）
▼高市・マルコスの日比首脳会談、GSOMIA交渉開始で合意（28日）
▼関電大飯原発設置許可取り消し訴訟控訴審で住民側逆転敗訴の判決（28日）
▼イスラエル軍がレバノン首都ベイルート近郊135カ所を空爆（28日）
▼改悪入管難民法が成立（29日）
▼アジア安保会議、米ヘグセス戦争長官講演。日米、日韓の防衛相会談も（30日）
▼日比防衛相会談、退役あぶくま型護衛艦輸出で大筋合意（31日）
▼自民党が国旗損壊罪法案条文案（1日）
▼米、キューバ大統領らを制裁対象に指定と発表（4日）
▼中東情勢等対応予備費2兆5千億・総額3兆1千億円超の補正予算成立（5日）
▼中国・習近平国家主席が訪朝し、金正恩総書記と会談（8日）

行動予定 Action Plan

■**三里塚フィールドワーク** 6月17日（水）10時天神峰市東さん宅前集合／反対同盟
■**6・18国会闘争** 6月18日（木）18時30分衆議院第2議員会館前／大行進東京
■**大坂正明さん解放！高裁行動** 6月18日（木）12時00分日比谷公園霞門集合→デモ、14時申し入れ・署名提出／星野大坂全国救援会
■**◎星野文昭・暁子絵と詩展** 6月19日(金)～21日(日)10時(初日12時)～19時(最終日17時) セシオン杉並展示室 **◎宮古島と杉並を結ぶ6・20講演集会** 6月20日（土）18時30分～セシオン杉並展示室／星野大坂救援会東京西部
■**レゾリュート・ドラゴン26粉砕！抗議行動** 6月20日（土）10時～陸自那覇駐屯地前／大行進沖縄
■**6・20世界難民デー東京入管抗議行動** 6月20日（土）12時～東京出入国管理局前／入管法と民族差別を撃つ全国実行委員会
■**6・21農楽まつり** 6月21日（日）10時30分市東さん南台農地集合→デモ、12時～萩原さんの清水の畑で農楽まつり／三里塚芝山連合空港反対同盟
■**狭山差別裁判糾弾！東京高裁包囲デモ＆要請行動** 6月22日（月）12時日比谷公園霞門集合／全国水平同盟杉並支部・東日本解放共闘
■**高市の式典出席阻止！再びの沖縄戦を許さない！「慰霊の日」式典抗議行動** 6月23日（火）午前、平和祈念公園正門前／大行進沖縄
■**星野国賠控訴審判決** 6月26日（金）11時～東京高裁717号法廷
■**星野文昭絵画展**(福岡) 6月27日(土)10時～17時西南学院大学内・西南学院コミュニティセンター多目的室／星野さんを取り戻す会・九州
■**「非核三原則解体と原発」学習会** 6月27日（土）14時30分～県立体育館中会議室、17時30分原爆ドーム前→デモ／NAZENヒロシマ、8・6ヒロシマ大行動
■**映画「在日」(歴史篇)上映＆トークin杉並** 6月28日（日）14時～セシオン杉並・講座室／大行進中野・世田谷・杉並
■**6・27横田反基地デモ** 6月27日（土）14時～福生市・東町公園、14時45分デモ出発／大行進東京・三多摩
■**横須賀基地抗議行動** 6月28日（日）、7月12日（日）いずれも14時米海軍横須賀基地正門ゲート前／大行進神奈川
■**7・2国会闘争** 7月2日（木）11時～衆議院第2議員会館前／大行進東京
■**7・3弁護士反戦集会** 7月3日（金）18時30分～弁護士会館講堂クレオ／憲法と人権の日弁連をめざす会・裁判員制度はいらない大運動・大行進東京
■**反戦女性集会＆デモin高円寺** 7月4日（土）16時～高円寺駅北口広場でリレーアピール、終了後高円寺中央公園集合→17時30分デモ出発／3・8国際婦人デー実
■**関西空港反対闘争** 7月5日（日）14時～泉佐野市篭池公園／泉州住民の会
■**7・5ヒロシマ反戦集会** 7月5日（日）14時～県立体育館小会議室、16時30分原爆ドーム前→デモ／8・6ヒロシマ大行動
■**松山反戦反核反差別デモ** 7月5日(日)13時30分松山市駅東口前／大行進えひめ
■**7・11国鉄闘争全国集会** 7月11日（土）12時開場、13時開会、千葉市文化センター・アートホール／国鉄闘争全国運動
■**7・16国鉄1047名解雇撤回裁判控訴審＆高裁デモ** 7月16日（木）12時30分日比谷公園霞門集合→デモ、14時～裁判（高裁101号法廷）、裁判後に報告集会
■**7・25横須賀反基地デモ** 7月25日（土）13時30分～ヴェルクよこすか6階第1会議室、集会後デモ／大行進神奈川
■**7・25反戦反核東京集会** 7月25日(土)18時30分、渋谷勤労福祉会館第1・第2洋室、集会後デモ／大行進東京

闘争日誌

▼5月7日 動労神奈川がストライキ決起
▼5月9日 米海軍横須賀基地抗議行動（15日、23日、30日、6月6日も）
▼5月9日 廃院下の新たな闘いへ八尾北・西郡総決起集会が100名で成功
▼5月10日 在日イラン人団体呼びかけの米大使館緊急抗議行動
▼5月11日 牛久入管収容所問題を考える会が茨城県庁で通報報奨金制度に抗議
▼5月12日 三里塚反対同盟が収用策動弾劾の千葉県庁デモ、空港拡張差止裁判
▼5月13日 三里塚・菱田デモに100名
▼5月16日～18日 5・15沖縄闘争
▼5月19日 総がかり国会行動に1万人
▼5月21日 国会闘争に70名
▼5月22日 全関西狭山集会＆デモ
▼5月23日 爆取弾圧須賀武敏さん出獄
▼5月23日 狭山集会＆デモに80名
▼5月24日 星野大坂全国集会に230名
▼5月24日 関西女性解放学習会
▼5月24日 ヒロシマ反戦デモ
▼5月24日 九州狭山集会
▼5月28日 大坂さん返せ東京高裁デモ
▼5月29日 WWOF国会行動に1万人
▼5月30日 指紋押捺拒否・千葉上映会
▼5月30日 御堂筋反戦デモ
▼6月2日 広島暴処法控訴審第1回公判で結審（判決7月30日）
▼6月4日 国会闘争に70名
▼6月4日 高円寺反戦デモに125名
▼6月6日 関西三里塚集会に80名
▼6月6日 埼玉反戦デモin越谷
▼6月8日 SKさくら交通労組がスト

会計報告（26年5月1日～31日）

●収入	199,948
ニュース代	94,600
口座振込カンパ	103,048
雑収入	2,300
●支出	373,668
闘争費	302,298
4.29弾圧対策	30,000
6.14闘争会場費	123,000
6.14闘争ビラ等	81,550
沖縄闘争関連	56,622
5.24賛同や電池等	11,126
ニュース作成	65,000
事務局活動費	6,370
●４月末繰越金	911,713
●残高	737,993

「**改憲・戦争阻止！大行進**」運動は、大規模な反戦デモをめざして全国で取り組んでいます。
各地にも「大行進」実行委員会がつくられています。
【呼びかけ】高山俊吉（弁護士）／森川文人（弁護士、憲法と人権の日弁連をめざす会）
野本三吉（ノンフィクション作家）／洞口朋子（杉並区議会議員）
国鉄千葉動力車労働組合
ブログ https://stop-kaiken.blog.jp/
ツイッター（X） https://x.com/grandmarch2020

ブログ　ツイッター

カンパのお願い

《振込先》
きらぼし銀行
東新宿支店（071）
普通 5009268
「弁護士 森川文人」